

第3学年2組 外国語科学習指導案

令和7年 11月19日（水）第5校時
場 所 第3学年2組
生徒数 29名
指導者 教 諭 佐東 かすみ
ALT ビバリー・ラマトロ

1 単元名 PROGRAM 7 Robots Can Improve Quality of Life

2 単元について

本単元では、ロボットが様々な場所や場面で活躍していることが紹介されている。ロボット開発が進むことによって、私たちの新しい働き方や人とのつながりが生まれていることがわかる内容となっており、人間とロボットの共存についても考えることのできる教材となっている。

また、新出言語材料としては、「仮定法過去」が取り上げられている。現実とは異なることを仮定して表現することのできる「仮定法過去」を学ぶことで、理想や想像の世界について語れるようになる。「If + 主語 + be 動詞～,」「If + 主語 + 一般動詞の過去形～,」といった仮定法過去の基本の形に加え、「I wish」を用いて現実とは異なる願望を表す形も導入し、それに続く助動詞の過去形も複数取り上げることによって文法的な知識事項への理解を深めたい。

少人数グループで協力して英文を作成したり、表現の工夫を重ねたりしながら、題材に対してまとまりのある英文を書くにはどうしたらいいかを考えさせる。現実とは異なる内容を伝える楽しさを感じさせ、自分の考えや気持ちを添えて表現する力を養う。

3 生徒の実態について

令和7年度埼玉県学力・学習状況調査の結果を見ると、本学年の生徒のレベルは10-Aであり、埼玉県の10-C、上尾市の10-Bを上回っていることから、英語力が確実に身に付いていると言える。令和6年度からの同集団における学力の伸びも3であった。下の分類・区別集計結果を見ても、教科の領域や評価の観点においてバランスよく四技能を伸ばしていることがわかる。

平均正答率		埼玉県	上尾市	本校
教科の領域等	聞くこと	55.8	57.6	60.6
	読むこと	57.2	58.8	62.6
	話すこと〔発表・やり取り〕	12.5	13.4	18.8
	書くこと	37.0	40.7	46.3
評価の観点	知識・技能	60.4	63.0	67.9
	思考・判断・表現	33.7	34.4	36.3

特に、話すこと〔発表・やり取り〕や書くことについては正答率が高く、普段からのALTとのスモールトークやインタビュー活動、作文の効果が表れているものと思われる。しかし、問題別集計結果を見ると、「文法事項や言語の働きなどを理解して正確に書くことができるか」をみる問題では、正答率が県、市を下回っている。また、「説明を読み、その内容に対する自分の考えや理由を述べることができるか」をみる問題では、正答率が2.1%、無回答率が41.7%であった。正確さを意識して作文したり、自分の気持ちや考えを表現したりすることを苦手になっている生徒が多いことが

うかがえる。個別に分析すると、二極化が進み、低学力の生徒が多くいることも否めない。既習事項についての定着が心配な生徒もいるため、常に教師や仲間のフォローが不可欠である。

そこで、授業では帯活動として、Quick Input で扱う基本文をノートに書く練習を毎日3分間確保し、昨年度からはその型を利用して、自分自身に関する話題や自らの気持ち・考えを表現する作文に挑戦するよう指示を出している。英語を苦手とする生徒にとっては繰り返しの練習を継続することにより、少しずつではあるが効果が表れているように感じる。

本時では、「仮定法過去」の定着を図る場面で少人数グループによる学び合いの場面を設定した。作文時には辞書としてタブレットを利用することで正確性を意識させ、自分の気持ちや考えも含んだまとまりのある英文を書かせるよう工夫したい。

4 学校研究主題との関連

研究主題 『生徒の探究力を伸ばす教育活動の工夫』
～小規模校の特性を生かした個別最適な学びと協働的な学び～

毎時間、帯活動で Quick Input による基本文の音読をペアで協力して行ったあと、英文を書く練習時間を設けている。基本文をそのまま書いて練習する生徒もいれば、自ら英文を考えて書く生徒もいる。書いてみたい英文、表現してみたい内容を自由に書くことで、生徒の探求力向上を目指す。

また、本時では、仮定法過去の意味や働きを定着させるため、少人数グループでカードを利用し、様々な英文を作らせることによってよりよい学びを生み出したい。自由に作文させる活動においてはテーマを複数用意し、生徒が個々に興味のあるトピックで作文ができるようにする。一人ひとりの興味・関心や必要性に合わせ、内容や英文の数も個々の習得状況に合わせて決められるようにし、個別最適な学びを促進する授業を展開する。タブレットを辞書として活用しながら自ら学習を発展させ、探求していく学びの場を設定したい。

5 「学力向上プラン」との関連

【英語科の重点目標】

- ①異文化を理解するとともに、コミュニケーション能力を育て、進んで英語を話し、相手に伝えようとする態度を育てる。
- ②積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う授業の工夫をする。

【具体的な取組】

- ①新出語句と言語材料の特徴や意味を理解させ、「聞く」「読む」「話す」「書く」の四技能をバランスよく伸ばす取組。
- ②自分の考えや気持ちを伝え合うために必要な技術や学習内容を習得しようとする取組。

6 単元の目標

ALTに「もし～だったら、・・・だろう。」と現実とは異なることを伝えるために、「仮定法過去」を用いて、自らの理想や希望、考えなどをまとまりのある文章で書くことができる。

- (1) 「仮定法過去」の用法を理解し、その意味や働きの理解を基に、自分の理想や考えなどを英文で書く技能を身に付けている。〈知識及び技能〉
- (2) 現在の事実とは異なることを仮定して、自分の理想や考えなどについて、まとまりのある英文を書いている。〈思考力、判断力、表現力等〉

- (3) 現在の事実とは異なることを仮定して、自分の理想や考えなどについて、まとまりのある英文を書こうとしている。〈学びに向かう力、人間性等〉

6 単元の評価規準

(本単元における「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと [やり取り・発表]」については、目標に向けての指導は行うが、本単元内で記録に残す評価は行わない)

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
書くこと	<知識> ①「仮定法過去」の用法を正しく理解している。 <技能> ②現実とは異なる内容について「仮定法過去」を用いた英文の内容を読み取ったり、書いたりする技能を身に付けている。	①現在の事実とは異なることを仮定して、それについての自分の理想や考えなどについて、まとまりのある英文を書いている。	①現在の事実とは異なることを仮定して、それについての自分の理想や考えなどについて、まとまりのある英文を書こうとしている。

7 単元の指導と評価の計画 (8時間扱い)

時間	◆目標 ○学習活動	知・技	思・判・表	態	◎評価規準 [評価方法]
1	◆仮定法過去の特徴や用法を理解する。 ○「If 主語+be 動詞～」を用いた文を聞いたり、書いたりする。(Scenes 1)	書			◎「もし自分が～だったら」と仮定して表現する技能を身に付けている。 [ワークシート分析]
2	◆Think 1の内容を理解する。 ○会話文の内容を理解し、音読する。				本時では、目標に向けての指導を行うが、記録に残す評価は行わない。
3	◆仮定法過去を用いて、現実とは異なることを伝えあう。 ○「If 主語+一般動詞」を用いた文で自分の考えを伝えあう。(Scenes 2)				本時では、目標に向けての指導を行うが、記録に残す評価は行わない。
4	◆Think 2の内容を理解する。 ○会話文の内容を理解し、音読する。				本時では、目標に向けての指導を行うが、記録に残す評価は行わない。
5 本時	◆仮定法過去を用いて、現実とは異なることについてまとまりのある文を書く。 ○仮定法過去を用いて、想像上の出来事について書く。		書	書	◎現在の事実とは異なることを仮定して、自分の理想や考えなどについて、まとまりのある英文を書いている。 [ワークシート分析] ◎現在の事実とは異なることを仮定して、自分の理想や考えなどについて、まとまりのある英文を書こうとしている。 [観察]
6	◆現実とは異なる願望について表現する。 ○「I wish +主語+過去形」を用いた文を聞いたり、書いたりする。(Scenes 3)	書			◎現実とは異なる願望について、表現する技能を身に付けている。 [ワークシート分析]
7	◆Think 3の内容を理解する。 ○会話文の内容を理解し、音読する。				本時では、目標に向けての指導を行うが、記録に残す評価は行わない。
8	◆本文の内容について自分の言葉で書く。 ○単元全体を振り返る。(Retell)		書	書	◎本文の概要や要点を捉えようとしている。 [ワークシート分析]
後日	○定期テスト	書	書		◎仮定法過去の用法を正しく理解している。 [定期テスト]

8 本時の指導（5／8）

（１）目標：仮定法過去を用い、現実とは異なることについて、自らの理想や考えなどをまとまりのある文章で書くことができる。

準備：ワークシート、ＩＣＴ端末、大型モニタ、パソコン

（２）本時の展開

時間 (分)	数 学習活動 ・活動内容 ○学校研究主題との関連	指導者の活動		・指導上の留意点 ◎評価〔方法〕
		J T E の活動	A L T の活動	
導入 13分	1 あいさつ 2 Quick Input ・音読 → ペア活動 → 書く練習 3 言語材料の確認 ・現実とは異なる願望について、ALTとJTEのやり取りを聞く。	・あいさつをする。 ・机間指導する。 ・時間を計る。	・月日、曜日、天気を確認する。 ・前時の宿題をチェックする。	・授業の流れを黒板に提示しておく。 ・お互いにヒントを出し合いながら活動する。
	J : I've been busy since yesterday. A : That's too bad. Why are you so busy? J : I had to mark the exam yesterday. I finished marking the exam at 12 last night. Also, I have an important class now. I'm very nervous. A : Don't worry, Ms. Sato. I can help you. J : Thank you, Beverly. Let's enjoy this class as usual. A : By the way, what would you like to do, if you had a month off? J : <u>If I had a month off, I would travel around the world by ship.</u> It's my dream. A : Wonderful idea! I've never traveled by ship. J : How about you, Beverly? A : <u>If I had a month off, I would go back to my hometown.</u> I want to see my family. J : Good. You couldn't go back to South Africa during summer vacation, right? A : No, I couldn't. <u>If I were rich, I could go there every month.</u> J : Wow. <u>If I were rich, I would buy a big house in Tokyo.</u> A : In Tokyo? Sounds nice. Everyone, if you were rich, what would you do? Talk with your classmates now. (In 30 seconds) S : <u>If I were rich, I would buy....</u> / <u>If I were rich, I would go....</u> J : You have a lot of interesting ideas. A : OK. So, let's check Today's grammar point. Ms. Sato, please.			・自然な会話の流れとなるよう意識する。 ・仮定法過去が使われていることに気づかせる。 ・教師から生徒に質問をして、対話の内容を広げる。 ・数名の生徒に発表させ、全体で共有する。
	・仮定法過去の形を復習する。 ・本時の目標を把握する。	・大型モニタで、仮定法過去の基本的な形を確認する。	・例文を読みあげる。	
目標：現実とは異なることについて、まとまりのある文を書こう。				

展 開 30 分	4 仮定法パズル ○協働的な学びを通して、文法構造を理解する。 ・仮定法の語句が書かれたカードを、正しい順番に並べ替える。	・答えは1つではないことを伝える。	・少人数グループごとにカードを配る。 ・巡回し、助言する。 ・並べ替えに苦労しているグループにアドバイスをする。	・想像力を膨らませ、様々な文を作らせる。 ・仮定法過去の基本の形を復習し、if 節と主節のつながりや、動詞の形に注目させる。
	[仮定法カードパズルの例] ・ If I were a whale, I could travel around the world. ・ If we were pandas, we would live in China. ・ If I had a rabbit, I would hug it. ・ If we had a horse, we would ride it.			
	・グループごとに英文を発表し、全体で共有する。	・発表された英文を確認する。	・発表された英文を評価する。	・could/ would のニュアンスの違いにも注目させる。
	5 作文 ○演習を個別化し、探究を深める。 ・3つの選択肢から好きなテーマを選び、仮定法の文を作成する。	・生徒一人一人の進捗を確認し、助言する。	・単語の綴りミス指摘し、訂正する。	・必要に応じてICT 端末の辞書機能を活用する。
	[3つのテーマ] ①未来コース : 「もし100万円を手に入れたら…」 「もしタイムマシンがあったら…」 ②有名人コース : 「もし〇〇 (有名人、スポーツ選手、歴史上の人物) だったら…」 ③社会コース : 「もし国境がなくなったら…」 「もし戦争がなくなったら…」			
	・仮定法過去を用いた文から始め、自分の考え、なぜそう考えるのかなど、まとまりのある英文を書く。	◎評価規準 現在の事実とは異なることを仮定して、自分の理想や考えなどについて、まとまりのある英文を書こうとしている。 〈評価方法〉 ・活動の観察 〈手立て〉 ・評価Cの生徒には、簡単な例文を提示する。 ・評価Bの生徒には、よりまとまりのある英文が追記できるよう、既習事項やヒントを伝える。 ・評価Aの生徒には、ALT と対話させ、さらに加えられる内容に気づかせる。		
	6 意見共有・中間指導 ○グループ内で作文を見せ合い、誤りを指摘したり、より効果的な表現を共有したりする。	・共通して見られる誤りを取り上げて指導する。	・机間指導を通して、いい表現を褒める。	・単語の綴りミス、文法的ミスがあれば仲間同士で指摘し、訂正する。
	[中間指導の効果] 他者と情報や考えを伝え合うことにより、自らの作文を振り返り、よりよい内容にするにはどうしたらよいか、生徒たちに気づかせ、再考させる。			・内容面、言語面の両方から指導する。

	7 再考・作文完成 ・アドバイスをもとに、作文を完成させ、提出させる。	・机間指導等を通して、いい作品を選ぶ。	・間違いをチェックして回る。	・自分の理想や考えを伝えるためにより表現を工夫し、文量を増やす。
まとめ 7分	8 共有・振り返り ・模範となる作文を共有する。	・いい作文を全体に提示する。 (内容面・言語面)	・大型モニタに映し出された作文を読みあげる。	・いい作文を取り上げ、仲間から学びを得る機会を作る。
〔予想される生徒の作品〕 If I had a time machine, I would see my grandfather. He died when I was five years old. I loved him so much, so I want to see him and play with him. I don't want to go to the future because I want to look forward to it.				
	・今日の目標が達成できたかを確認する。	・仮定法過去の形を再度、確認する。 ・何文書けたか、確認する。		・目標を達成することができたかを確認する。
	9 あいさつ	・宿題を提示する。	・あいさつをする。	

9 ICT活用計画

(1) 大型モニタ

- ・Quick Input 活動における計時や、仮定法過去の形を確認するときに使用する。

(2) ICT端末

- ・ドキュメントで作文し、課題を提出する。
- ・情報を調べたいときやわからない単語を調べるとき、辞書代わりに使ってもよい。